

社会科学学習指導案

平成26年7月9日(水曜日)～9月8日(月曜日)6年〇組 指導者

1 単元名 日本の歴史「戦国の世から江戸の世へ」

2 考察

(1) 教材

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

- ・第6学年 2 内容(1)オ
- ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かる。

② 主な伸ばしたい資質・能力

- ・戦国大名の群雄割拠の状態から信長・秀吉・家康による全国統一に至るまでの出来事についての関心
- ・戦国の世が統一されたことや、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて考える力
- ・戦国の世が信長・秀吉・家康らによって統一されていく様子について、地図や年表、絵図などの資料を基に調べていく力
- ・戦国の世が統一されたことや、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて理解したこと、考えたことを適切に表現する力
- ・戦国大名の群雄割拠の状態から信長・秀吉・家康により全国が統一されたことの理解

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・『疑問や驚きを持つことができる資料』として、室町時代の民衆の安定した、平和な生活の様子と、戦国時代、武士が激しく戦っている様子の違いに疑問や驚きを持つことができる資料を提示し、戦国時代、全国統一を目指した信長・秀吉・家康のうち、全国統一のMVPの武将は誰かを単元を貫く課題として設定し、予想を立てる。
- ・『事実を捉えることができる資料』を基に、三人の武将の働きを調べ、理解する。
- ・『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、のちに260年も続く安定した武士の世の中を築いた家康の働きを考える。
- ・『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、三人の武将の働きと現在の生活とのつながりについて考え、まとめる。

④ 今後の学習の活用

- ・家康の後、誰がどのような政策を行い、長く安定した世の中をつくっていったのか、また、武士や商人、農民がどのような思いで生活していたのか、また、江戸時代の生活と現在とのつながりを考えながら学習していく。

(2) 本単元に関わる児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

- ・源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことを学習している。
- ・研究主題である歴史的事象の意味をより広い視野から考えることができる力の育成に関連して、京都の室町に幕府が置かれたころ、現在の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が生まれたことを学習している。

② 本単元に関わる実態及び指導方針

- ・児童は、6月初旬に鎌倉へ修学旅行に出かけ、鎌倉街道、切通し、円覚寺、大仏、鶴岡八幡宮、鎌倉の町などを見学した。修学旅行の振り返りの作文において、建造物や街道、町のつくりな

ど、当時のものが現在でも生活に生かされていることを感じる事ができたと書いている児童はあまりいなかった。このことから、現在の生活が歴史上の人物の働きによって成り立っていることを考えられる児童が少ないと言える。

- ・問題解決的な学習過程においては、「知りたい」という思いを持って自分たちで学習課題を設定することは難しい現状にある。また、問題の解決に向けて、意欲的に資料から調べる姿は見られるものの、事実の読み取りにとどまり、調べて得られた情報を基に考えを持つ段階まではなかなかいかない。これらの実態をふまえて、問題解決的な学習過程に、学習課題に即して段階的に取り入れ、考える力を育てるための資料である『ステップアップ型資料』を取り入れることとする。
- ・単元の導入で、児童の興味を引き付けるために『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れることにより、単元を貫く課題を児童が設定し、答えを予想できるようにしていく。次に、予想を検証し、事実を明らかにするために、『事実を捉えるための資料』を取り入れたたり、明らかになった事実を揺さぶり、より考えを持てるようにするために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れたりする。最後に、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、三人の武将の業績と現在の生活とのつながりについて考えることにより、三人の武将の業績をより広い視野から考える力を育てていく。
- ・単元の最後に、学習を終えて、三人の武将の中から自分が考えたMVPを宣伝するポスターを制作する活動を通して、単元を貫く課題の答えをまとめる。

3 研究との関わり

平成26年度群馬県学校教育の指針において、「単元の導入で児童が疑問や驚きを持てる資料を提示し、その疑問や驚きから単元を貫く課題を設定すること」「読み取らせることを明確にして資料を提示していくこと」を社会科の指導の重点として掲げている。

本小単元において、三人の武将が全国統一を目指して行ったことの役割を考えることができるために、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れることは、県の重点課題に関連しており、意味のあることだと考える。

4 単元の目標

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康により、戦国の世が統一されていったことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考えようとする。

5 指導計画（全8時間予定）

評価規準	関心・意欲・態度		信長や秀吉、家康による全国統一の様子に関心を持ち、それぞれの武将の業績を意欲的に調べようとしている。					
	思考・判断・表現		戦国の世が統一されたことや、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。					
	観察・資料活用の技能		戦国の世の中が信長や秀吉、家康らによって統一されていく様子について、地図や年表、絵図などの資料を効果的に活用して具体的に調べている。					
	知識・理解		信長、秀吉、家康によって全国が統一されたことが分かっている。					
時間	過程	資料		主な学習活動	評価			
		種類	中心となる資料		関	思	技	知
第1時	つかむ	疑問や驚きを持つことができる資料	月次風俗屏風 祇園祭礼図屏風 戦国大名地図	○室町時代は、農業や商業が発達して民衆の暮らしが活気づいていたが、武士や貴族は争いをしていたことを屏風絵などで知り、違いに興味を持つ。				

			長篠合戦図屏風 絵 年表	○長篠合戦図屏風絵や年表より、信長、秀吉、家康の三人が同じ時代に全国統一を目指していたことに興味を持ち、全国統一のMVPは誰かに関心を持って単元を貫く課題を設定する。	◎			
			[単元を貫く課題] 信長、秀吉、家康のうち、全国統一のMVPは誰だろうか。 (はばたく群馬の指導プラン③どうすれば、どちら型)					
第2時 ～ 第6時	追究する	事実を捉えることができる資料	教科書 資料集	○教科書や資料集を基に、三人の武将の業績を調べる。 ○各自で調べたことを班の中で出し合い、KJ法で整理する。(2時間)			◎	
			南蛮屏風 天下布武 安土城跡	○各自で見つけた信長の業績を学級全体で五つに絞っておき、それらについて全員で調べ、理解する。			○	◎
			大阪城 検地帳 刀狩令	○各自で見つけた秀吉の業績を学級全体で五つに絞っておき、それらについて全員で調べ、理解する。			○	◎
			江戸図屏風 天下餅の歌 関ヶ原の戦いの 屏風絵 江戸城の写真	○各自で見つけた家康の業績を学級全体で五つに絞っておき、それらについて全員で調べ、理解する。			◎	
		既習内容を 揺さぶる ことができる 資料	長篠合戦図屏風 絵 徳川氏叙任の絵	○長篠合戦図屏風絵と徳川氏叙任の絵を比較して違いを読み取った後、家康の力の強さに気付く。				
第7・ 8時	考え・ まとめる	既習内容を 深化・ 発展する ことができる 資料	信長名言集 (信長と現在) 大阪城公園 (秀吉と現在) 日光東照宮と石見銀山 (信長、秀吉と現在) 今の東京 (家康と現在)	○資料を基に、三人の武将の業績が現在の生活とつながっていることを考える。 (2時間)			◎	

6 展開

(1) 1 時間目／8 時間

- ① **ねらい** 長篠合戦図屏風絵から織田軍、武田軍の戦い方の違いを調べたり、年表から信長、秀吉、家康の三人が同じ時代に全国統一を目指していたことに気付いたりすることにより、興味を持って単元を貫く課題を設定し、答えを予想することができる。

- ② **準備** (教師)室町時代の学習を振り返るクイズのカード

『疑問や驚きを持つことができる資料』

：祇園祭礼図屏風、月次風俗図屏風、長篠合戦図屏風絵、年表、戦国大名地図

③ 展 開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 既習事項を振り返る。 ・室町時代から刺身、団子が食べられるようになったとは知らなかったな。 ・農民や町民とは違い、武士は争いをしていたなんて驚いたな。 2 学習課題を立てる。 (1) 長篠合戦図屏風絵を見て気付いたことを話し合う。 ・右側と左側で戦っている。 ・右側は刀、やりを使っている。 ・左側は鉄砲を使っている。	15分	◎既習事項を楽しく振り返り、新しい学習への意欲を持てるように、「室町時代〇×クイズ」を出題する。 ○室町時代、農業や商業が発達して民衆の生活が活気づいていたことを理解できるように、月次風俗図屏風、祇園祭礼図屏風を提示する。 ○戦国時代は各地で争いが多かったことに気付けるように戦国大名地図を提示する。 ○戦国時代の戦いの激しさに驚きを持てるように、室町時代の活気のある民衆の様子が表れている屏風絵と比較しながら長篠合戦図屏風絵を提示する。 ◎自分の考えを持てるように、屏風絵を見て気付いたことをノートに書かせたり、ペアで交流させたりしていく。 ○屏風絵の左側は信長と家康の連合軍、右側は最強の騎馬軍を率いていた武田勝頼軍であることを確認する。
<学習課題>織田軍と武田軍、どちらが勝っただろうか。		
(2) 学習課題の答えを予想する。 ・人数が多い織田軍が勝ったと思う。		○根拠を持って考えられるように、予想をした理由を考えるように助言する。
3 両者の戦い方の違いに注目して課題を追究する。 ・織田軍は、鉄砲を使っている。 ・織田軍には柵があって、馬が侵入できないようにしている。 ・武田軍はやりや刀を持っている。 4 単元を貫く課題を設定し、答えを予想する。	15分	○どちらが勝ったか考えやすくするために、織田軍と武田軍の戦い方に視点を当てていくように助言する。 ○連合軍の中で信長が大将であることに注目できるように、屏風絵のどこにいるか問い掛ける。 ○織田、徳川連合軍が勝利したことを理解できるように、連合軍の鉄砲、柵など優れた作戦を確認していく。 ○信長、秀吉、家康の三人が同時代に活躍した武将であることに驚きを持てるように、屏風絵の中に三人がいることを確認することのほかに、年表を提示することにより三人の関係をおさえていく。 ○三人の業績により全国統一が行えたことに興味を持てるように、ホトトギスの川柳を提示した後、単元を貫く課題を設定していく。
[単元を貫く課題]信長、秀吉、家康のうち、全国統一の MVP は誰だろうか。 (はばたく群馬の指導プラン③どうすれば、どちら型)		
・信長 6 人 ・秀吉 7 人 ・家康 13 人		○根拠を持って予想できるように、長篠合戦図屏風絵、年表、川柳を基に考えるように助言する。
5 学習のまとめをする。 (1) 予想したことについて理由を書く。 <目指す子どもの意識> 信長が MVP だと思います。理由は全国統一に向けて一番最初に動き出して決断力があるし、外国と貿易を積極的に行い進んだ考えを持っていたからです。 (2) 課題解決の方法を考える。 ・教科書、資料集、NHK for school (3) 次時の学習を知る。	15分	◎自分の考えをしっかりと持てるように、MVPの武将だと考える理由をノートに書くように助言する。 ◇興味を持って単元を貫く課題を設定したり、根拠を持って予想したりすることができる。 (ノート・観察)【関心・意欲・態度】 ○解決への意欲を持てるように、解決の方法を考えるように問い掛ける。 ○学習の意欲を持てるように、次時は各自で三人の武将について調べ学習をすることを伝える。

④ 板書計画

7/〇
室町時代
○×クイズ

農民や町民は元気

月次風俗図屏風

祇園祭礼図屏風

→ **戦国時代**

<学習課題> 織田軍と武田軍、どちらが勝ったろうか。

信長

秀吉

家康

武田

長篠合戦図屏風

織田軍

武田軍

馬防さく、鉄砲、人数多い やり、刀、人数少ない

[大きな学習課題]
信長、秀吉、家康のうち全国統一の MVP はだれだろうか。

まとめ

わたしは〇〇〇が MVP だと思います。
その理由は、_____
だからです。

(授業で使用する資料) 『疑問や驚きを持つことができる資料』

祇園祭礼図屏風

祇園祭礼図
屏風の写真

月次風俗図屏風

月次風俗図屏風の
写真

長篠合戦図屏風絵

長篠合戦図屏風絵の写真



年表

信長	秀吉	家康
1534 尾張で生まれる	1542 尾張で生まれる	1561 三河で生まれる
1560 おけはさの戦いで今川氏をおす 27才	1561 信長につかえる	1561 今川方の武将として戦う 19才
1562 家康と連合する	1562 織田方の兵士として戦う 24才	1562 信長と連合する
1573 室町幕府をほうほうす		
1575 安土城を築く	1576 明智光秀をおす 自害	
1582 大阪城を築く	1582 秀吉にしたかう	
1583 全国を統一する	1583 病死する	
1590 関ヶ原の戦いで勝つ		1598 江戸幕府を開く
1603 豊臣氏をほうほうす		1605 病死する
1616		

(2) 2、3時間目／8時間

① ねらい 『事実を捉えることができる資料』を基に、教科書や資料集を活用して三人の武将の業績を調べることができる。

② 準備 (教師) 付箋紙、台紙

(児童) ノート、『事実を捉えることができる資料』: 教科書、資料集

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、 追究の見通しを持つ。 ・今日から自分で調べるぞ。 ・調べ方が分かった。		○めあてを持って本時の調べ学習ができるように、単元を貫く課題に対する予想を検証するために三人の業績を各自で調べていくことを伝える。 ＜学習課題＞ 信長、秀吉、家康の活躍を見付けよう。
	10分	○自信を持って調べ学習を行えるように、前時に三人の武将の業績を調べる方法を出し合ったことを確認していく。 ○見通しを持って学習できるように、調べたことをノートにまとめる方法や、2時間扱いで調べていくことを伝える。 ＜まとめ方の確認事項＞ ・教科書や資料集を一通り読む。 ・教科書や資料集の中で、活躍だと思ったところに印を付ける。 ・活躍を挙げた後、三つに絞り込み、選んだ理由をノートに書く。 ・考えの根拠をはっきりさせるために、教科書や資料集のどこに掲載されていたのかも記述しておく。 ・絞った活躍三つについては、付箋紙に書き溜めておく。その際、表に活躍、裏に理由を書くことにする。
2 課題を追究する。	50分	◎活動が滞っている児童が自信を持って取り組めるように、まとめ方の確認事項を振り返り、活躍だと思うところに印を付けるように助言する。 ◎2時間扱いの学習を見通しを持って行えるように、一日目の調べ学習の終了の5分前に隣同士で途中経過を伝え合ったり、進行状況を全員で確認し合ったりしていくように指示をする。 ○各自で調べたことを広げていくために、二日目の調べ学習の時間を15分間とし、授業の後半は、各自で調べたことをグループ内で交流することを伝えておく。 ◇教科書や資料集を基に、三人の武将の活躍を三つ自分なりに見つけ、調べることができる。(ノート)【観察・資料活用の技能】
3 各自で調べたことをグループ内で交流する。	25分	○三人の業績を理解するために、グループでの交流については三人の活躍をKJ法で整理し、仲間分けをして見出しを付けるように指示をする。 ○各自の知識を広げるために、グループから全体へと交流する場を設定する。
4 学習のまとめをし、次時の学習を知る。 ＜目指す子どもの意識＞ 信長、秀吉、家康は、共に知恵を働かせたことにより、全国統一を目指すことができたと思う。グループのみんなで活躍について仲間分けをしたことにより、全国統一のためにどんな努力をしたかが分かった。	5分	○三人の業績を理解するために、2時間の調べ学習を振り返り、感想をノートに書くように伝える。 ○学習への意欲を持てるように、次時は三人のそれぞれの武将を全員で調べることを伝える。

④ 板書計画

7/〇

<学習課題>

信長、秀吉、家康の活やくを見つめよう。

[大きな学習課題]

信長、秀吉、家康のうち、全国統一の MVP はだれだろうか。

調べる方法
教科書、資料集

まとめ方

①活やくに印

②活やくを三つ

③教科書 P〇 L〇

④ふせん 表

活やく

ふせん うら

理由

信長

秀吉

家康

まとめ
・感想

・次回の学習

(3) 4 時間目／8 時間

① ねらい 信長が全国統一を目指して行ったことについて、『事実を捉えることができる資料』を基に信長の業績を理解することができる。

② 準備 (児童)教科書、資料集、ノート

(教師)グループでまとめた用紙

『事実を捉えることができる資料』

:長篠合戦図屏風絵、天下布武の写真、安土城跡の写真、楽市楽座の絵、南蛮屏風の絵

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。 ・三人とも全国統一のために活躍していた。 ・三人は戦いが優れていただけでなく、いろいろな活躍をしていたな。	10 分	○前時の学習を思い出すことができるように、前時にグループでまとめた用紙を配付し、活動を振り返るように促す。 ○単元を貫く課題の予想を検証するために、三人のそれぞれの武将をこれから全員で学習していくことを伝える。 ○学習への意欲を持てるように、グループでまとめた用紙を基に、学級の児童の様子を事前に集計しておき、学級全員が選ぶ活躍ベスト5をクイズ形式で出題していく。
＜学習課題＞ 信長はどのようにして全国統一を目指したのだろうか。		
2 課題を追究する。 (1) 活躍ベスト5について、資料を基に調べていく。 ・長篠の合戦の時の三段戦法のすごさが分かった。 ・天下を取ろうとした信長の意気込みがすごい。 (2) 信長の一番すごいところを考える。 ・長篠の合戦に勝った一番の要因である鉄砲だと思う。 ・南蛮貿易だと思う。理由は鉄砲など外国の文化を取り入れていたから。	20 分	○業績については、鉄砲、室町幕府を滅ぼす(天下布武)、安土城、楽市楽座、南蛮貿易が挙げると予想される。 ○鉄砲を取り入れた信長のすごさに気付けるように、火縄銃や三段戦法の仕組みを伝える。 ○天下を取る思いに気付けるように、「天下布武」の印を使用していたことを伝える。 ○信長が経済力を高めていったことに気付くことができるように、城下町、楽市楽座、南蛮貿易の資料を取り入れていく。 ○全国統一のために経済力を高めていったことを理解できるように、経済力を高めていった理由を考えるように促す。 ○信長についての理解を深めることができるように、外国人宣教師から見た信長の様子を伝える。 ○信長の業績についての理解を深めるために、信長の一番すごいところを考える活動を取り入れる。 ○業績の理解を確実にするために、一番すごいところを挙げる際はその理由も考えるように助言する。
＜目指す子どもの意識＞ 私は、南蛮貿易を行い、良い物を選んで取り入れてきました。ポルトガルから入ってきた鉄砲を取り入れて三段戦法で長篠合戦に勝利をし、誰よりも早く全国統一を目指したのは私です。		◇信長が全国統一を目指して行った業績を自分の言葉でまとめることができる。(ノート)【知識・理解】
3 学習のまとめをし、次時の学習を知る。 (1) 信長になったつもりで、全国統一 MVP 選挙の演説をしよう。 ・キーワードは鉄砲と南蛮貿易にしようかな。	15 分	○信長になったつもりで全国統一 MVP の選挙の演説の言葉を考えることを学習のまとめとする。 ◎信長について考えてきたことを参考にしながら、キーワードを入れながら演説内容を考えるようにと助言する。 ○考えを書きやすくするために、インタビュー形式でノートに吹き出しで書く活動を行う。 ○自分の考えを広げるために、隣同士や学級全体でインタビューをしていく。
(2) 次時の学習を知る。		○学習への意欲を持てるように、次時の学習内容を伝える。

④ 板書計画

8 / ○

信長の肖像画

<学習課題> 信長はどのようにして全国統一をめざしたのだろうか。

みんなが考える信長の活やくベスト5

長篠合戦
三段戦法

天下布武
の写真

安土城
跡の写真

楽市楽座
の絵

南蛮貿易の
屏風絵

信長のすごいところ

インタビ
ュアー

全国統一 MVP 選挙演説

全国統一をめざして
行ったことは何
ですか。

信長

(授業で使用する資料)『事実を捉えることができる資料』

長篠合戦図屏風絵

長篠合戦図屏風の写真

安土城跡の写真



天下布武の印



楽市・楽座

楽市・楽座の絵

南蛮屏風

南蛮屏風の写真

(4) 5時間目／8時間

① ねらい 秀吉が全国統一を目指して行ったことについて、『事実を捉えることができる資料』を活用することにより、秀吉の業績を理解することができる。

② 準備 (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) グループでまとめた用紙

『事実を捉えることができる資料』: 現在の大阪城の写真、秀吉による統一の地図
(1582年と1590年)、検地帳の写真、刀狩令

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。		○前時は信長の活躍について学習したことを確認する。 ○本時への意欲を持てるように、本時は秀吉について学習することを伝える。
<学習課題>秀吉は、どのようにして全国統一をしていったのだろうか。		
	10分	○意欲的に学習できるように、事前にグループで整理した用紙を基に学級の児童の様子を集計しておき、学級全員が選ぶベスト5をクイズ形式で出題していく。
2 課題を追究する。 (1) 活躍ベスト5について資料を基に調べていく。 ・大阪城には、黄金の茶室があるね。 ・大阪城の天守閣は、信長の安土城より豪華にしたね。 ・検地や刀狩を行った理由は、農民が反抗できないようにさせたからです。 ・秀吉は、農村出身だから農民のことをよく知っていたので刀狩や検地も行えたんだね。 (2) 秀吉の一番すごいところを考える。 ・明智光秀や戦国大名を倒して全国統一をしたところ。理由は、信長ができなかった全国統一をやり終えたから。 ・身分の低い足輕から出世したところ。理由は、身分に関わらず努力して全国統一をしたから。	20分	○大阪城、検地、刀狩が挙げると予想されるので、大阪城から全員で調べていくように助言する。 ○秀吉の全国統一への意気込みの大きさに気付くことができるように、大阪城の模型や現在の大阪城の写真を見せた後、なぜ大阪城をつくったのかを問い掛ける。 ○検地において、事実であることを実感できるように、実際の検地帳やものさしの写真を提示する。 ○秀吉が行いたかったことを理解できるように、検地や刀狩をした理由を問い掛ける。 ○全国統一ができた理由の理解を深めることができるように、足輕から出世して信長に仕えて力を付けていったことや、農村生まれだったから農民の団結力の強さをよく知っていたことを伝える。 ○朝鮮に大軍を送ったことは歴史上大事な出来事なので、活躍ではないが触れるようにする。 ○秀吉の業績について理解できるように、秀吉の一番すごいところとその理由を考えるように問い掛ける。
◇秀吉が全国統一を目指して行った業績を自分の言葉でまとめることができる。 (ノート)【知識・理解】		
3 学習のまとめをし、次時の学習を知る。 (1) 秀吉になったつもりで全国統一 MVP 選挙の演説をしよう。 ・キーワードは検地と刀狩にしよう。	15分	○秀吉になったつもりで全国統一 MVP の選挙の演説の言葉を考えることを学習のまとめとする。 ◎演説の言葉を考えやすくするために、秀吉について学習してきたことを参考にしてキーワードを入れながら演説内容を考えたり、インタビュー形式でノートに吹き出しで書いたりするようにと助言する。 ○自分の考えを広げることができるように、隣同士や学級全体でインタビューをし合う活動を取り入れる。
<目指す子どもの意識> 私は、検地や刀狩を行いました。このことにより、武士や町民は城下町に住み、農民は農村に住んで農業を行うようになりました。私が、武士が世の中を支配する社会をつくり、全国統一をしました。		
(2) 次時の学習を知る。		○学習への意欲を持てるように、家康について調べることを伝える。

④ 板書計画

9/〇

秀吉の
肖像画

<学習課題> 秀吉はどのようにして全国統一をしたのだろうか。

みんなが考える秀吉の活やくベスト5

秀吉による統一の地図

現在の大阪城の写真

検地帳

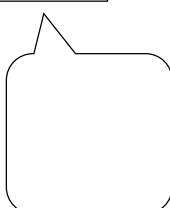
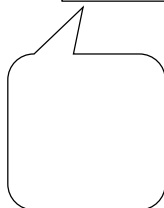
検地の様子

刀狩令

石見銀山



秀吉のすごいところ

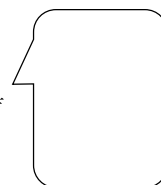


全国統一 MVP 選挙演説

インタ
ビュー

全国統一を
めざして行
ったことは
何ですか

秀吉



(授業で使用する資料)『事実を捉えることができる資料』

1582年の秀吉の領地



1590年の秀吉の領地



大阪城

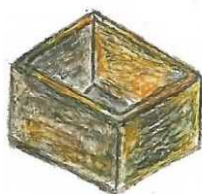


検地

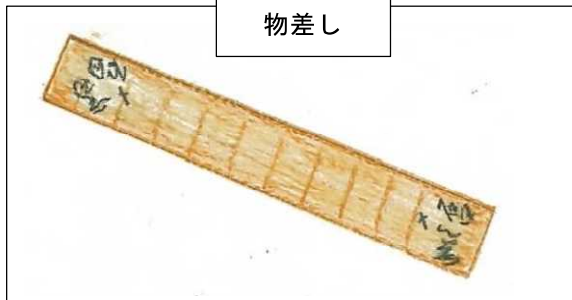
検地帳

検地帳の写真

ます



物差し

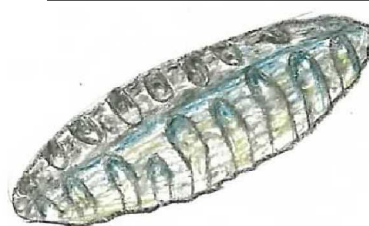


刀狩令

刀狩令

農民が刀や
やりなどの武
器を持つこと
を禁止する。
取り上げた
武器は新しい
大仏を造るた
めの釘にする。

石見銀山で採掘された銀



(5) 6時間目／8時間

① **ねらい** 家康が全国統一を目指して行ったことについて、『事実を捉えることができる資料』や、『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用することにより、家康の業績を理解したり、なぜ力の強い江戸幕府をつくることができたかを考えたりすることができる。

② **準備** (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) グループでまとめた用紙

『事実を捉えることができる資料』

：江戸図屏風絵、天下餅の歌、関ヶ原の戦いの屏風絵、現在の江戸城の写真

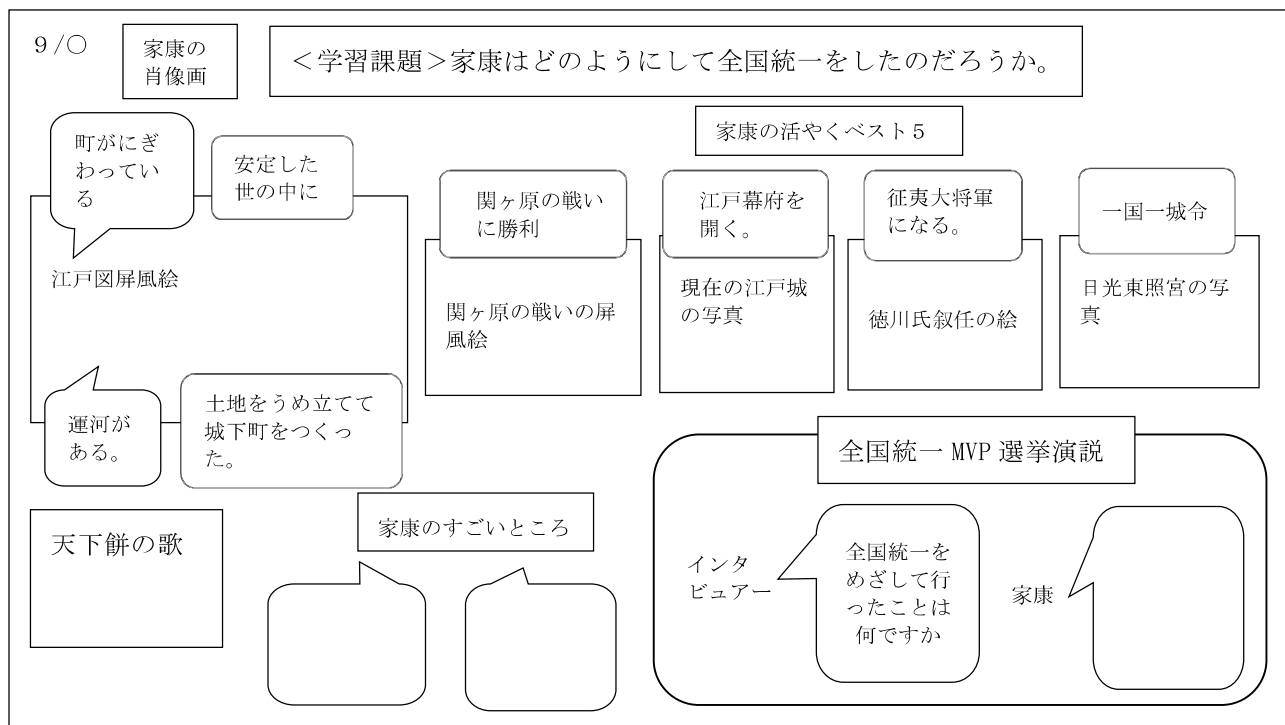
『既習内容を揺さぶることができる資料』

：長篠合戦図屏風絵、徳川氏叙任の絵、日光東照宮の写真

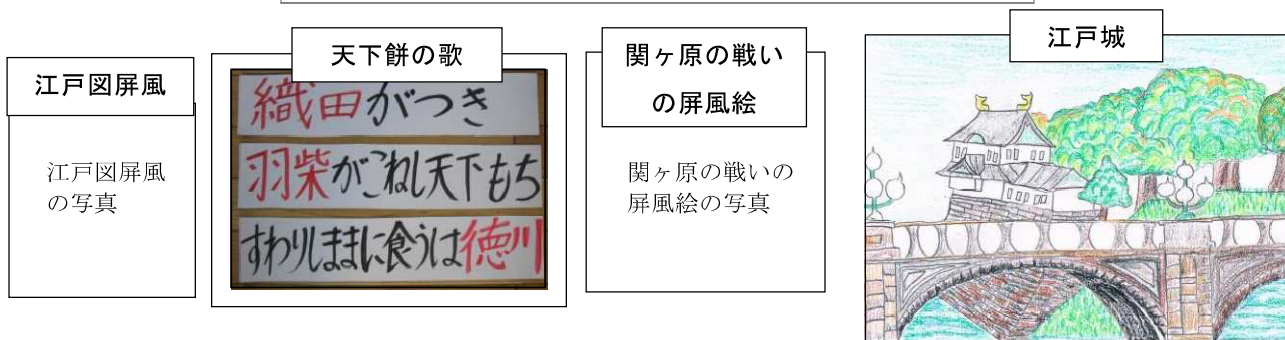
③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 江戸図屏風絵と天下餅の歌から気付いたことを発表する。 ・江戸の町が賑わっている。 ・信長と秀吉の道を受け継ぎ、最後に天下を取ったのが家康だ。	10分	○前時は秀吉の活躍について学習したことを確認していく。 ○本時の学習への意欲を持てるように、江戸図屏風絵を見て気付いたことを発表させた後、天下餅の歌から家康がどのように全国統一を果たしたかを学習することを伝える。
<学習課題>家康は、どのようにして全国統一をしていったのだろうか。		
(2) 解決の見通しを持つ。 ・活躍ベスト5は何だろう。		○意欲的に学習できるように、事前にグループで整理した用紙を基に学級の児童の様子を集計しておき、学級全員が選ぶ活躍ベスト5をクイズ形式で出題していく。
2 課題を追究する。 (1) 活躍ベスト5について資料を基に調べていく。 ・家康は他の大名にお願いをしていたなんて準備がいいな。 ・秀吉からもらったじめじめした江戸の土地を埋め立てて城下町をつくったなんてすごいな。 ・大名たちが将軍にひれ伏している。よほど力がすごいんだな。 (2) 家康の一番すごいところを考える。 ・江戸に城下町をつくったこと。理由は、じめじめした広い土地を埋め立てることにより、みんなが住める町につくり変えたから。 ・関ヶ原の戦いに勝ったこと。理由は大名たちにお願いをして味方を増やして勝つことができたから。	20分	○関ヶ原の戦い、征夷大將軍、江戸幕府を開く、江戸を埋め立てて城下町をつくる、一国一城令、戦いのない安定した世の中をつくったなどが挙げると予想される。 ○家康の強さの秘密を知ることができるように、関ヶ原の戦いでは豊臣軍の方が人数が多かったのに勝つことができたことや子どもの頃の境遇などを伝える。 ○將軍の力の強さを知ることができるように、長篠合戦図屏風絵と徳川氏叙任の絵を比較していく。 ○家康の業績の大きさに気付くことができるように、家康が祀られる日光東照宮の写真を提示していく。
◇徳川氏叙任の絵や日光東照宮の写真より、家康の業績の大きさについて考えることができる。 (ノート、観察)【思考・判断・表現】		○家康の業績について理解を深めることができるように、一番すごいところを挙げる際は、その理由を考えるようにと助言する。
3 学習のまとめをし、次時の学習を知る。 (1) 家康になったつもりで全国統一 MVP 選挙の演説をしよう。	15分	○家康になったつもりで全国統一 MVP の選挙の演説の言葉を考えることを学習のまとめとする。 ◎演説の言葉を考えやすくするために、家康について学習してきたことを参考にしてキーワードを入れながら内容を考えたり、インタビュー形式でノートに吹き出しで書いたりするようにと助言する。 ○自分の考えを広げることができるように、隣同士や学級全体でインタビューをし合う。
<目指す子どもの意識> 私は、関ヶ原の戦いに勝って全国を統一し、朝廷から征夷大將軍の地位をもらい、江戸に幕府を開きました。江戸を埋め立てて賑やかな城下町をつくり、260年も続く安定した世の中の基礎をつくりました。		○学習への意欲を持つことができるように、次時は三人の武将の業績のまとめの学習を行うことを伝える
(2) 次時の学習を知る。		

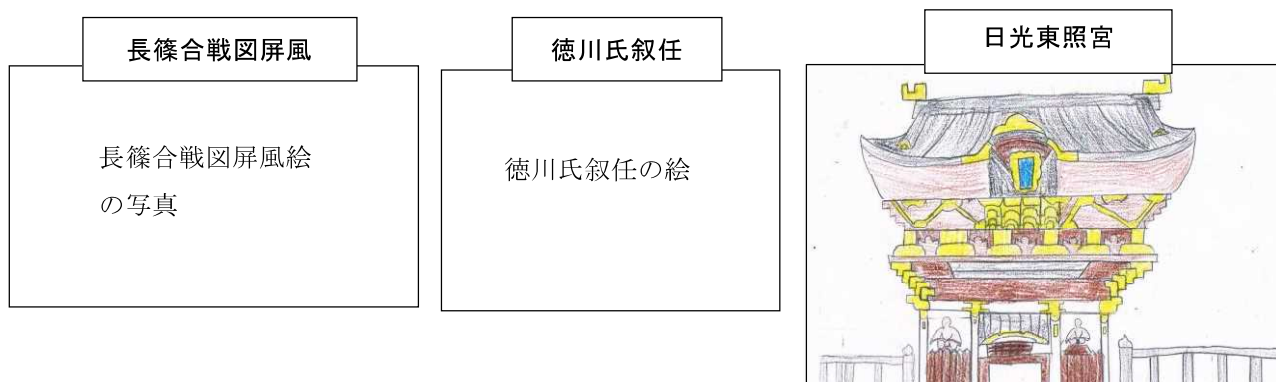
④ 板書計画



(授業で使用する資料)『事実を捉えることができる資料』



(授業で使用する資料)『既習内容を揺さぶることができる資料』



(6) 7、8時間目／8時間目

① **ねらい** 信長、秀吉、家康が全国統一を目指して行ったことについて、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、三人の業績が現在の生活に役割や影響を与えていることを考えることができる。

② **準備** (児童)教科書、資料集、ノート

(教師)『既習内容を深化・発展することができる資料』

: 南蛮貿易によりもたらされた物、大阪城公園、日光東照宮と石見銀山、今の東京の航空写真など

③ **展開**

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 前時までを振り返り、本時の学習課題をつかむ。 (1) MVPを決める。 ・信長にしよう。 ・信長だったけど、家康にした。 (2) MVP 推薦人になり、宣伝活動を行うことを知る。 (3) 解決の見通しを持つ。 ・ポスターを描こう。 ・推薦人になり、応援演説をしよう。	10分	○本時の学習を意欲的に行うことができるように、前時までの学習を振り返る。 ○本時は三人の武将の中から自分が思う全国統一 MVP の武将を決め、推薦人になり宣伝活動を行うことを伝える。 <学習課題>MVP の武将を宣伝しよう。 ○どのように宣伝したらよいか考えやすくしていくために、現在の選挙運動を思い起こすようにと問い掛ける。 ○ポスターと応援演説が挙げると予想される。 ○意欲的に宣伝活動を行えるように、前時まで演説を行ってきたので、ポスターにすることを提案する。
2 課題を追究する。 (1) 『既習内容を深化・発展させるための資料』を基に考える。 (2) 宣伝活動を行う。 ・ポスターを描こう。	35分	○三人の業績と現在の生活とのつながりを考えることができるように、6時間学習したことほかに、『既習内容を深化・発展することができる資料』を提示していく。 ○業績と現在の生活とのつながりについて、信長はカステラや上毛カルタ、秀吉は大阪城公園や石見銀山、家康は日光東照宮と現在の東京の写真を提示する。 ○ポスターのキャッチコピーを考えるために、前時までに学習した三人の武将のキーワードを参考にするように助言する。 ○三人の業績が、戦国時代や江戸時代に与えた役割を考えることができるように、武将の業績について書くように助言する。 ○三人の業績が現在の生活の中に受け継がれていることを考えるために、本時で行った『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、考えたことを必ず書くように助言する。
3 学習のまとめをする。 (1) 作ったポスターをもとに、MVP の武将を宣伝しよう。 <目指す子どもの意識> 武将の業績が戦国時代や江戸時代、現在の生活へとつながっていることが、ポスターに描かれている例 (信長)南蛮貿易でポルトガルから取り入れた金平糖、ぼくも大好きだよ。 (秀吉)大阪城は、現在では公園になっていてみんなの憩いの場だよ。 (家康)現在の東京があるのは、家康が土地を埋め立ててくれたおかげだ。 (2) 次時の学習を知る。	45分	○友達の考えに触れ、自分の考えと比べることができるように、描いたポスターを掲示し、学級全員で見ていく。 ○自分の考えを広げることができるように、友達のポスターを見て新しく発見したことや感想を書く活動を取り入れる。 ◇友達の宣伝活動聞いて、三人の武将の業績が、戦国時代や江戸時代、そして、現在の生活へとつながっていることを考えることができる。 (ノート、観察)【思考・判断・表現】 ○学習への意欲を持てるように、次時は家康が築いた江戸時代について学習することを伝える。

④ 板書計画

9/〇

<学習課題> MVP の武将を宣伝しよう。

方法

◎ポスター

○応えん演説

ポスターのかき方

キャッチコピー

業績

活やくが
現在でも
役立って
いるな。

信長

ボーロ

カステラ

秀吉

大阪城公園

家康

日光東照宮

信長

上毛カルタ

秀吉

石見銀山

家康

現在の東京の
写真

児童

ポスター

児童

ポスター

児童

ポスター

まとめ

(授業で使用する資料)『既習内容を深化・発展することができる資料』

信長の業績と現在の生活

カステラ



ボーロ



上毛カルタ



秀吉の業績と現在の生活



現在の大阪城

秀吉の業績と現在の生活

世界文化遺産
になっている
現在の石見銀
山の写真



家康の業績と現在の生活



世界文化遺産の日光東照宮

家康の業績と現在の生活

空から撮った現在の
東京の写真

社会科学学習指導案

平成26年10月24日(金曜日)～11月13日(木曜日) 6年〇組 指導者 齊藤 好子

1 単元名 日本の歴史「世界に歩み出した日本」

2 考察

(1) 教材

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

- ・第6学年 2 内容(1)ク
- ・大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かる。

② 主な伸ばしたい資質・能力

- ・明治時代後半、国際的地位が向上したことへの関心
- ・国際的地位の向上や、労働問題、環境問題に力を尽くした先人の働きと現在や将来の生活とのつながりについて考える力
- ・国際的地位が向上したことの理由は何か、資料を基に調べていく力
- ・国際的地位が向上したことの理由について、資料を基に調べ、理解したこと、考えたことを適切に表現する力
- ・国際的地位が向上したことの理由は、日清・日露の戦争、条約改正、産業の発展、科学の発展などが絡み合ったものであることへの理解
- ・国際的地位の向上の裏には、労働問題や環境問題が起きたことへの理解

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・明治時代前半と後半の日本の国際的評価が違うことに『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れ、明治時代後半、なぜ、日本の国際的地位が向上したのかを単元を貫く課題として設定し、予想を立てる。
- ・『事実を捉えることができる資料』を基に、国際的地位が向上したことの理由として、日清・日露戦争、条約改正、産業の発展について調べ、理解する。
- ・『事実を捉えることができる資料』を基に、国際的地位が向上したことの理由として、科学の発展についてグループ内で分担して調べる。
- ・『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、国際的地位の向上の裏には、労働問題や環境問題が起きたことを考える。
- ・『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、国際的地位の向上や労働問題、環境問題に力を尽くした先人の働きと現在や将来の生活とのつながりについて考え、単元を貫く課題についてまとめる。

④ 今後の学習の活用

- ・「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習において、日本の安全を守るために国際的地位の向上を目指して努力してきたことが、どのように太平洋戦争とつながっているのかを意識しながら学習を進めていく。
- ・さらに、太平洋戦争について、現在や将来の生活とどのようにつながっているのかを考えていく。

(2) 本単元に関わる児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

- ・前単元「明治の国づくりを進めた人々」において、文明開化、明治諸改革に関わった人物が、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを学習している。
- ・研究主題である歴史的事象の意味をより広い視野から考えることができる力の育成に関しては、7月下旬から9月上旬に、「戦国の世から江戸の世へ」の小単元において、信長、秀吉、家康

の業績と現在の生活とのつながりを考える活動を行い、先人の働きが現在の生活に息づいていることを学習している。

② 本単元に関わる実態及び指導方針

- ・7月上旬に行った児童アンケートでは、「資料から読み取ったことを基に自分の考えを説明することができますか」の質問において、「できない」と答えた児童が3分の1もいた。また、7月下旬から9月上旬に学習した「戦国の世から江戸の世へ」のまとめの学習において、自分の考えを持てずに事実を並べて書いている児童もいた。したがって、資料を基に考えることが苦手な児童が多いことが分かる。
- ・「歴史の授業で学んでいることは、現在や将来の生活の発展に役立つと思いますか」の質問において、役立つと答えた児童は全体の4分の3もいた。しかし、その理由の中で、歴史を学ぶ意義を理解している内容を書いた児童は、全体の3分の1しかおらず、3分の2の児童は「テストや受検に役立つから」「家族でクイズをする時、役立つから」「自分の子どもに聞かれた時、答えられるようにするため」という内容を記述していた。したがって、歴史から学んだことを基に、自分もよりよい社会について考えていこうという意識が低いことが分かった。
- ・これらの実態から、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために、問題解決的な学習過程に、学習課題に即して段階的に『ステップアップ型資料』を取り入れていく。
- ・「つかむ」過程では、問題意識を持って単元を貫く課題を設定できるように、『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れる。その資料とは、既習事項や経験から当然の出来事として読み取れる資料と、それとは対比する事柄の資料の二種類の資料である。
- ・「追究する」過程では、単元を貫く課題に対する答えの予想の正しさを検証するために必要な資料を教師が選定し、提示する。まず、予想を検証し、事実を明らかにするために『事実を捉えることができる資料』を取り入れる。次に、それらの資料から明らかになった事実についての考えや理解を揺さぶることにより、多面的・多角的に考えていくために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れる。
- ・「考え・まとめる」過程では、先人の働きや出来事と現在や将来の生活とのつながりについて考えることができる資料として、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り入れる。
- ・単元を通して学んだ歴史的事象の意味をより広い視野から考えた力を表現することができるために、まとめとして、単元を貫く課題の答えや、先人の働きや出来事と現在や将来の生活とのつながりについての考えを、新聞に整理する活動を取り入れる。

3 研究との関わり

所属校では、昨年度の6学年の授業の様子や、今年7月上旬に行ったアンケートより、歴史的事象がその時代にどんな役割や影響を与えたかを考えたり、歴史学習において学んだことを自分と関わらせながら考えたりすることができる児童が少ない。その原因は、児童が切実感や必要感を感じながら学習課題を設定していなかったために、歴史を自分と関わりのあるものとして捉えられていなかったためと考えられる。また、資料の読み取りにおいて、読み取らせることを教師が明確にしていなかったために、児童が資料を基に考えを深めることができず、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができなかつたと考えられる。

そこで、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を段階的に取り入れ、徐々に考えを深めることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てていく。単元の「つかむ」過程において、対比する二つの資料を取り入れることにより、そこから生まれる疑問や驚きから単元を貫く課題を児童が設定できるようにし、答えを予想していく。「追究する」過程では、前半、予想を検証し、事実を明らかにするために、『事実を捉えることができる資料』を取り入れる。後半には、『事実を捉えることができる資料』から捉えた事実を多面的・多角的に考えることができるように、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れていく。「考え・まとめる」過程

では、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り入れ、学んだ歴史と現在や将来の生活とのつながりを考えることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てていく。

以上のことから、問題解決的な学習過程に学習課題に即して段階的に資料を取り入れ、考える力を育てることができるように、『ステップアップ型資料』を取り入れた授業実践を行い、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てようと、研究を進めることとした。

7月下旬から9月上旬に、小単元「戦国の世から江戸の世へ」で授業を実践し、研究の有効性を検証した。実践を通して、「つかむ」過程の中の『疑問や驚きを持つことができる資料』には、既習内容から読み取れる出来事を資料として提示した後、対比する事柄の資料を提示することにより、問題意識を持って、単元を貫く課題を設定し、答えを予想できることが分かった。

「追究する」過程の前半、『事実を捉えることができる資料』として、予想を検証して事実を明らかにすることができる資料を提示し、写真や映像資料を見せることにより、授業に変化が生まれ、追究するために効果的であることが分かった。後半には、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れ、資料を基に多面的・多角的に考えることができるか検証した。『既習内容を揺さぶることができる資料』として、前時までに提示した『事実を捉えることができる資料』とは対比する内容の資料を提示することにより、それまでの児童の考えが揺さぶられ、考えが深まることが分かった。

「考え・まとめる」過程に提示する『既習内容を深化・発展することができる資料』として、先人の業績が現在の生活とつながっていることが分かる資料には、児童に身近な物を実物や写真で提示したり、先人の願いや努力が現在の生活の改善へとつながっていると考えやすい資料を提示したりするとよいことが分かった。

1回目の授業実践の検証を基に、第2回目、「世界の中に歩み出した日本」の小単元で授業実践を行う。歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために、単元指導計画の中での『ステップアップ型資料』の提示方法として、1回目の授業実践から学んだことを取り入れ、研究の有効性を検証していく。

4 単元目標

年表や写真、文章、地図、統計などの資料を活用して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きを調べることを通して、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働きを考えることができる。

5 指導計画（全9時間予定）

評価規準	関心・意欲・態度		日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展や、それらに関わる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。						
	思考・判断・表現		我が国の近代化を願う人物の働きによって国力が充実し、国際的地位が向上したことや、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展や、それらに関わる人物の願いや働きについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。						
	観察・資料活用の技能		日清・日露戦争、条約改正、科学の発展や、それらに関わる人物の願いや働きを地図や年表、その他の資料を活用して読み取り、新聞などにまとめている。						
	知識・理解		我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それらによって人々の生活や社会が変化したことが分かっている。						
時間	過程	資料		主な学習活動		評価			
		種類	中心となる資料			関	思	技	知

第1時	つかむ	疑問や驚きを持つことができる資料	・オールコック「大君の都」 ・ノルマントン号事件の風刺画 ・アメリカ、ドイツの新聞記事	○イギリスの外交官の1863年の著書にある日本人観や1886年ノルマントン号事件を描いたビゴーの風刺画を基に日本が欧米諸国から低く見られていたことを知る。 ○1905年のアメリカ、ドイツの新聞記事より、日本が欧米から強国だと認められるようになったことから、なぜ、外国から認められるようになったのかを単元を貫く課題として設定していく。	◎			
		[単元を貫く課題]日本は、なぜ、外国から認められるようになったのだろうか。						
				○既習事項や年表を基に、予想を立てる。 ・岩倉使節団が頑張ったから。 ・憲法や国会をつくり、国の仕組みを整えたから。 ・条約の改正を行ったから。 ・二つの戦争に勝ったから。 ・産業が発展したから。 ○憲法と国会については、前小単元で学習しているため、予想の正しさの根拠は何か証明していくことにより、既習事項の定着を図っていく。				
第2時～第6時	追究する	事実を捉えることができる資料	・国際社会で活躍した人々の世界地図 ・野口英世年表 ・北里柴三郎年表 ・志賀潔年表 ・新渡戸稲造年表	○「岩倉使節団が頑張ったから」という予想が出ると考えられる。それと関連させて世界で活躍した日本人がいたことに注目できるようにしていく。 ○教科書に掲載している四人の偉人を取り上げ、四人が世界の中で活躍したことを資料を活用して各自で調べる。			◎	
		事実を捉えることができる資料	・条約改正年表 ・陸奥宗光の年表 ・陸奥宗光の名言	○「条約の改正を行ったから」という予想について調べる。(①領事裁判権の撤廃) ○資料を基に陸奥宗光の働きや願いを読み取り、領事裁判権が撤廃されるまでの先人の努力を理解する。				◎
		事実を捉えることができる資料	・日清、日露戦争の表 ・小村寿太郎 ・東郷平八郎	○「日本が二つの戦争に勝ったから」という予想について調べる。 ○資料より二つの戦争での陸奥宗光や東郷平八郎、小村寿太郎の働きを知る。				◎
		事実を捉えることができる資料	・日本の領土の広がり ・条約改正年表 ・小村寿太郎の年表	○「条約の改正を行ったから」という予想について調べる。(②関税自主権の回復) ○日清・日露戦争による領土の広がりの資料に注目していく。 ○条約改正年表より、韓国併合の後、関税自主権が回復されたことを知り、陸奥宗光に手紙を書いて報告する。			◎	○
		既習内容を揺さぶることができる資料	・朝鮮での日本語の授業の写真 ・増やされた日本語の授業のグラフ ・与謝野晶子	○戦争や韓国併合の裏には朝鮮及び中国の人々に大きな損害を与えたことや、日本でも戦争に反対した人がいたことに気づき、当時の人々の思いを考える。				
		事実を捉えることができる資料 既習内容を揺さぶることができる資料	・明治時代の工場や労働者の数のグラフと輸出入の推移のグラフを関連 ・産業の発展とくらしの進歩を関連 ・産業の発展と工女の日課表や足尾銅山を関連	○「産業が発展したから」という予想について調べる。 ○資料より、日清戦争を境に工業が発展していることに気付く。 ○産業の発展によって、交通の発達などによりくらしが進歩したことを知る。 ○産業が発展していた時期に労働・環境問題が起きたことを知り、当時の人々の思いや願いを考えるために、田中正造や工女に手紙を書く。	◎			○

第 7時	考 え ・ ま と め る	既習内容を深化・発展することができる資料	実物：肉じゃが (東郷平八郎と現在) 写真：労働時間適正化キャンペーンのポスター (工女の生活と現在) 写真：自動車の組み立て工場 (産業の発展と現在) 写真：足尾の植林 (足尾鉍毒事件と現在) 写真：韓国料理 (韓国併合と現在)	○「追究する」過程までの資料を基に、単元を貫く課題の答えをまとめる。 ○学習した歴史と現在の生活とのつながりについて、各自で考えた後、グループの友達と考えを交流し、全体で共有する。 ○教師が提示した『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、一斉に調べ学習をする。 ○歴史を実感できるように、食べ物など可能な範囲で実物を用意する。 ○歴史的事象と現在の生活とのつながりを身近に感じることができるように、児童の生活に即した資料を優先して取り上げる。 ○歴史的事象と現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができる資料として、『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に考えた事実が、現在の生活の改善へとつながっていることを考えやすい資料を多く取り上げる。		◎		
第 8時 ～ 9時				○単元のまとめとして、単元を貫く課題の答えや、それらと現在の生活とのつながりを考えられるように、新聞を作る。 ○作った新聞を基に、友達と交流する。 (2時間)		◎		

6 展開

(1) 1 時間目／9 時間

- ① **ねらい** 『疑問や驚きを持つことができる資料』を活用することにより、外国から認められていなかった日本が明治時代後半に認められるようになったことに驚きを持ち、それを基に単元を貫く課題を設定したり、予想を立てたりすることができる。

- ② **準備** (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) 『疑問や驚きを持つことができる資料』

：オールコック「大君の都」、ノルマントン号事件の風刺画、条約改正の表、アメリカ、ドイツの新聞記事

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 明治維新クイズを行う。	5 分	◎ペリー、岩倉使節団、大日本帝国憲法、伊藤博文など、本単元に関わる既習事項のフラッシュ型クイズを行い、学習への意欲を高める。
2 学習課題を立てる。 (1) 1863年の外交官オールコックの文章を読み、気付いたことをノートに書く。 ・日本人がばかにされている。 ・西洋人がすごいと書いている。 (2) 1886年に起きたノルマントン号事件の風刺画を見て、吹き出しに言葉を書いて、交流する。 ・見捨てないでくれ。(日本人) ・おまえたちが乗る場所はないんだ。役立たずめ。(船員) ・日本人はじゃまだ。いいからこのままボートを漕ぎ出せ。(船長) (3) 条約改正年表を見る ・完全に改正されるまでに53年もかかったんだな。 (4) アメリカやドイツの新聞記事から感じたことをノートに書く。 ・ノルマントン号事件の時と全然違う。 ・日本は強い国と言っている。不思議だな。	30 分	○日清戦争以前の日本の国際的地位の低さに気付くためにオールコックの著書「大君の都」「ノルマントン号事件」の風刺画を提示する。 ○ノルマントン号事件を理解することができるように、絵に吹き出しを書き、船員、船長、日本人は何を話しているか、想像して書くように伝える。 ○多くの友達の考えに触れられるように、ペアから全体へと交流する。 ○この事件での船長の行動は罰せられるに値することであったが、幕末に結んだ不平等条約のために、日本で裁判ができなかったことを確認する。 ○不平等条約が改正されるまで53年かかったことに気付くことができるように、年表を提示する。 ○明治時代後半に、日本の国際的地位が向上していくことに驚きを持てるように、日露戦争後のアメリカやドイツの新聞記事の中の日本を讃える言葉を紹介する。 ○なぜ、日本は外国から認められるようになったのかを単元を貫く課題とする。
【単元を貫く課題】 日本は、なぜ、外国から認められるようになったのだろうか。 (はばたく群馬の指導プラン②「なぜ・どうして」型)		
3 学習のまとめをする。 (1) 単元を貫く課題の答えを予想する。 <目指す子どもの意識> ・岩倉使節団が頑張り、日本人が世界で活躍したから外国から認められるようになった。 ・憲法や国会がつくられ、国の仕組みが整ったから外国から認められるようになった。 ・条約の改正を行ったから外国から認められるようになった。 ・戦争に勝ったから外国から認められるようになった。 ・産業が発展したから外国から認められた。	10 分	◎自分の考えを持つことができるように、考えをノートに書くように指示をしたり、ペアや全体で交流したりするように促す。 ○憲法や国会については前時までに学習している。既習事項の理解が定着するように、考えの根拠を問い掛けて予想が正しいことを検証していく。 ◇問題意識を持って単元を貫く課題を設定したり、既習事項を基に課題の答えを予想したりすることができる。 (ノート・観察)【関心・意欲・態度】 ○次時は、外国から認められるようになった理由として予想した「岩倉使節団が頑張り、日本人が世界で活躍したから」について調べていくことを話し、学習の意欲を高めていく。
(2) 次時の予告を知る。		

④ 板書計画

10/〇

明治維新クイズ

[大きな学習課題]

日本は、なぜ外国から認められるようになったのだろうか。

1863年
オールコック
の本から

アメリカ・ド
イツの新聞記
事より

1886年

ノルマントン号事件

船長

日本人は
じゃまだ。

日本人

見捨て
ないで
くれ。

船員

おまえたちが
乗る場所はないんだ。

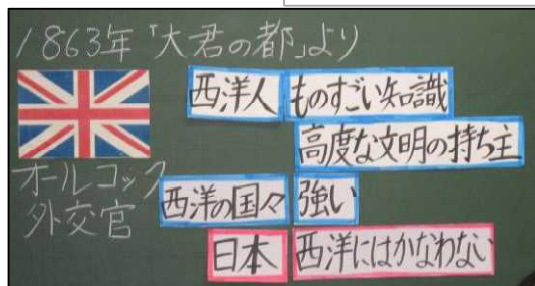
年表

予想

- ☆ 憲法や国会
- 世界で日本人が活やく
- 条約の改正
- 戦争に勝利
- 産業が発てん

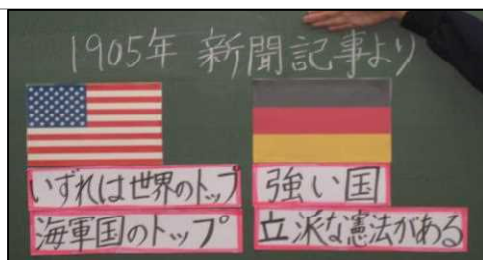
(授業で使用する資料) 『疑問や驚きを持つことができる資料』

「日本の低い評価」を捉えるための資料



1886年ノルマントン号事件

「日本の高い評価」を捉えるための資料



(授業で使用する資料) 補助資料

条約改正の歩み

1853年	○ペリーが来航する
1858年	○日米修好通商条約を結ぶ(不平等条約を結ぶ)
1863年	○オールコック「大君の都」発行
1868年	○明治政府が成立する
1871年	○岩倉使節団が外務をおとずれる
1886年	○ノルマントン号事件が起こる
1889年	○大日本帝国憲法が公布される
1894年	○不平等条約の一部を改正する(外国人をさげないという条約を改正)
1894年～1895年	○日清戦争
1904年～1905年	○日露戦争
1905年	○アメリカ、イタリヤ、ドイツで、日本をたたえる新聞を発行
1911年	○不平等条約の改正達成(関税を自由にかけられないという条約を改正)

(2) 2時間目／9時間

① **ねらい** 『事実を捉えることができる資料』を活用して、科学などにおける日本人の世界での活躍を調べることができる。

② **準備** (児童)教科書、資料集、ノート

(教師)『事実を捉えることができる資料』

: 野口英世、北里柴三郎、志賀潔、新渡戸稲造の年表と写真、世界で活躍した日本人の世界地図

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時での学習課題を知る。	5分	◎本時は、単元を貫く課題に対する答えとして予想した「日本人が世界で活躍したから」について調べていくことを伝える。
<学習課題>世界で活躍した日本人について調べよう。		
2 課題を追究する。 (1) 岩倉使節団について教科書、資料集を活用して復習する。 (2) 教科書と資料集から活躍した人物を探す。 ・野口英世だ。・志賀潔だ。 ・北里柴三郎だ。 (3) 教科書、資料集、年表を活用して野口英世、志賀潔、北里柴三郎、新渡戸稲造の活躍について調べ、分かったこと、考えたことを書く。 (4) 各自の調べ学習の後、友達と交流し合う。	30分	◎岩倉使節団が外国で活躍したからという予想を調べるために、アメリカやヨーロッパに行った目的を教科書や資料集で調べるように助言する。 ◎津田梅子の活躍を挙げた後、岩倉使節団のほかに外国に行き、活躍した人がいたことを伝え、教科書に載っている野口英世、志賀潔、北里柴三郎、新渡戸稲造について調べていくことを伝える。 ◎資料を活用して調べる力が育つように、四人編成のグループの中で、四人の先人を一人ずつ分担して調べることを伝える。 ◎調べる方法として、教科書、資料集、年表を活用するように伝える。 ◎先人の業績だけでなく思いや願いも理解することができるように、調べて分かったことだけでなく、考えたこともノートに書くように助言する。 ◎考えを広げることができるように、調べ学習の後、友達との交流を通して新しく発見したことを書き加えるように指示する。 (交流方法) (1回目) 同じ先人同士で集まり、交流 (2回目) 四人グループの中で交流
3 学習のまとめをする。 (1) 課題追究を振り返り、学習のまとめをノートに書く。 <目指す子どもの意識> 野口英世、志賀潔、北里柴三郎は、外国に行って死亡することの多かった病気の治療方法を研究し、大活躍をした。新渡戸稲造は、国際連盟の事務局次長になり世界の中で活躍したり、アメリカと良い関係になるように努力したりした。 したがって、四人の活躍により、日本は外国から認められるようになったと思う。 (2) 次時の予告を知る。	10分	◎四人の世界的な活躍も外国から認められるようになった理由の一つであることを確認し、学習のまとめを書くように伝える。 ◎考えを書きやすくするために、四人の名前、活躍の内容を書くように助言をする。 ◇野口英世、志賀潔、北里柴三郎、新渡戸稲造の活躍により、日本の国際的地位が高まったことを資料を活用して調べている。 (ノート・観察)【観察・資料活用技能】 ◎考えを広げることができるように、ペアや全体で交流するように促す。 ◎次時は、単元を貫く課題の答えとして予想した「産業が発展したから」について調べていくことを伝え、学習の意欲を高めていく。

④ 板書計画

10 / ○

<学習課題>

世界で活やくした日本人について調べよう。

野口英世

年表

志賀潔

年表

北里柴三郎

年表

新渡戸稲造

年表

世界で活やくした日本人の地図

日本が外国から認められるようになった理由（予想）

- ☆ 憲法や国会
- ☆ 世界で日本人が活やく
- 条約の改正
- 戦争に勝利
- 産業が発てん

まとめ

（授業で使用する資料）

『事実を捉えることができる資料』

世界で活躍した日本人の地図



野口英世

1876年	○福島県の貧しい農家にたん生
1878年	○左手をいりでやけど。5本の指がくっついた形になる。
1892年	○会陽医院の渡部医師の手術を受け、左手で物をにぎれるようになる。医者になることを知り、医者になろうと決心
1897年	○医師開業試験に合格
1898年	○伝染病研究所に入る。
1900年	○アメリカにわたる。フレクスナー博士のもとで毒へびの研究をする。
1903年	○デンマークへ留学し、マドセン博士のもとで学ぶ。
1904年	○ロックフェラー医学研究所の助手になる。
1911年	○梅毒菌を育てることに成功。世界中に名前が広まり、ノーベル賞の候補になる。残念ながら、第一次世界大戦のため、ノーベル賞の受賞は決められなかった。
1918年	○エカアデルで黄熱病の研究
1927年	○黄熱病の研究のため、アフリカにわたる。
1928年	○ガーナで黄熱病にかかり、病死。53才。

北里柴三郎

1852年	○熊本県の庄屋の長男としてたん生
1875年	○東京大学医学部に入学
1883年	○内務省の衛生局に勤務。長崎で発見したコレラの調査にあたり、才能をみとめられる。
1885年	○ドイツへ留学を命。ベルリン大学のコッホ教授のもと、細菌学を学ぶ。 →コッホ教授から才能をみとめられ、「コッホ門下の四天王」と呼ばれる。
1898年	○破傷風を育てることに成功。その後、血清を使ったちりょう法を発見。北里柴三郎の名前が世界へ。
1892年	○伝染病研究所を設立
1894年	○香港でペスト菌を発見 ※ペスト ペスト菌によって起こる病気。ヨーロッパでは黒死病と言われ、おそれられていた。
1914年	○伝染病研究所が東京大学に所属することになり、所長を辞職
1915年	○新たに北里研究所を設立
1917年	○慶應義塾大学の初代医学部長に。
1931年	○病死。80才

志賀潔

1870年	○仙台藩の藩士の4男としてたん生
1896年	○東京大学医学部を卒業。伝染病研究所に入り、北里柴三郎から細菌学を学ぶ。
1897年	○日清戦争後、原因不明の病気が日本全国に広がり、患者数9万人、死亡者数2万人の大きな事が発生 →この病気である赤痢菌(せきりきん)を発見。志賀潔の名前が世界に広まる。
1901年	○ドイツへ留学。エーリッヒに細菌学を学ぶ。
1904年	○エーリッヒとともに研究し、アフリカのすいみん病のちりょう法を発見。
1914年	○伝染病研究所を辞職
1915年	○新設された北里研究所に入る。
1920年	○慶應義塾大学の医学部教授に就任
1925年	○京城帝国大学の初代医学部長に就任
1957年	○病死。88才

新渡戸稲造

1862年	○岩手県盛岡市にたん生
1871年	○9才の時、親元からはなれ、東京へ
1877年	○札幌農学校に入学。キリスト教入信
1883年	○東京大学選科生として入学。入学時の面接で、英文学を学びたい理由として「太平洋のかけ橋になりたい」と一言
1884年	○アメリカへ留学
1887年	○ドイツへ留学。農業や統計学を学ぶ。
1900年	○英文「武士道」を発行
1906年	○法学博士となる。第一高等学校の校長に就任
1918年	○東京女子大学初代学長に就任
1920年	○国際連盟事務局次長に就任 国際人として大活やく
1928年	○女子経済専門学校の初代校長に就任
1933年	○カナダで没す。71才

-資料24-

(3) 3時間目／9時間

① ねらい 『事実を捉えることができる資料』を活用することにより、陸奥宗光の働きで領事裁判権が撤廃されたことを理解することができる。

② 準備 (児童)教科書、資料集、ノート

(教師)『事実を捉えることができる資料』

：ノルマントン号事件の風刺画、条約改正までの年表、鹿鳴館の舞踏会の絵、NHK for school「黒船」「不平等条約の締結」「治外法権の撤廃」、陸奥宗光の年表、陸奥 宗光の名言

③ 展開

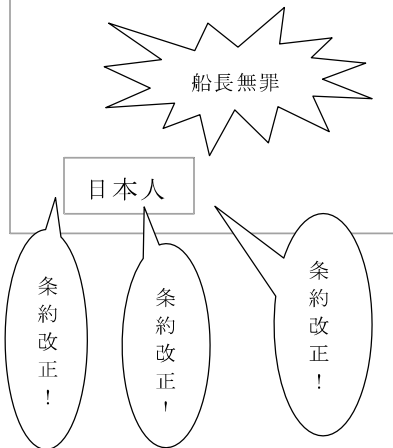
学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 ノルマントン号の風刺画より、本時の学習課題をつかむ。 ・日本で起きた事件なのに、イギリス人が裁いたんだ。 ・日本人が損をする条約だったんだ。 ・この事件をきっかけに、条約改正を願う日本人が増えたんだ。	5分	○本時は不平等条約の改正が、外国から認められるようになった理由かどうかを調べていくことを伝える。 ○不平等条約改正のうち、最初に領事裁判権の撤廃に成功したことに着眼できるように、前時で扱ったノルマントン号事件の風刺画や年表を提示していく。 ○どのようにして領事裁判権が撤廃されたのかを調べることを本時の学習課題とする。
＜学習課題＞ どのようにして、外国人を裁けないという不平等条約をなくすことができたのだろうか。		
2 課題を追究する。 (1) テレビ教材を見て、幕末に外国と結んだ不平等条約について復習する。 ・日本は仕方なく不平等条約を結んだ。 (2) 年表を基に日本が条約改正に向けて今まで努力をしてきたことを復習する。 ・岩倉使節団も頑張ったけれど、改正できなかったのだな。 ・鹿鳴館をつくって西洋人に気に入られようと思ったのだな。 ・鹿鳴館ができて3年後にノルマントン号事件が起きている。鹿鳴館は効果がなかったのだな。 (3) テレビ教材より陸奥宗光の働きで領事裁判権をなくすことができたことに気付く。 ・カミソリ大臣と言われていたなんてすごい人だな。 ・坂本龍馬から信頼されていた。 ・混んでいる所をすり抜けることがうまいから、てきぱきとしていてものすごい行動力の人なんだな。	30分	◎アメリカと日本の文明の違いや不平等条約を理解できるように、NHK for schoolのテレビ教材「黒船」「不平等条約の締結」を見ることとする。 ○岩倉使節団の最大の目的が条約改正であることを理解できるように、教科書や資料集で調べるようにと伝える。 ○外国に認めてもらうために必死の努力をして鹿鳴館をつくったことに気付くことができるように、当時の日本人の服装や家の様子や鹿鳴館の絵を提示する。 ○日本人の欧米化に対して外国人がおかしさを感じていたという事実気付くことができるように、ビゴアの風刺画「猿まね」を提示する。 ○鹿鳴館で舞踏会を開いても外国から認められなかった事実を伝える。 ○陸奥宗光の人物像を理解した上で条約改正の働きや思いを理解できるようにテレビ教材を提示する。 ○陸奥宗光の働きの大きさを理解できるように、条約改正につながるとされるエピソードや名言を取り上げる。 ○陸奥宗光がイギリスに着目したという外交政策の巧さに気付くことができるように領事裁判権の撤廃を行ったイギリスの影響を受けて諸外国も条約を撤廃していった事実を伝える。 ○陸奥宗光の働きで領事裁判権を撤廃できたことが、外国から認められる要因の一つであったことを確認する。
3 学習のまとめをする。 (1) 課題追究を振り返り、課題に対する考えをノートに書く。 ＜目指す子どもの意識＞ 陸奥宗光は坂本龍馬が望んでいた日本の国際的地位の向上を目指して、筋の通っていない領事裁判権をなくすことに全力を尽くした。日本の安全を守るために、世界の様子をよく観察し、イギリスと良い関係でいることに努めた。 (2) 次時の予告を知る。	10分	◎自分の考えを書きやすくするために、陸奥宗光を主語としてノートに書くように指示をしたり、ペアや全体で交流したりする。 ◇条約改正にかける先人の思いに気付き、陸奥宗光の働きにより、領事裁判権をなくすことに成功したことをノートにまとめることができる。 (ノート・観察)【知識・理解】 ○単元を貫く課題の答えとして予想した「戦争に勝ったから」について調べていくことを伝え、学習の意欲を高める。

④ 板書計画

10 / ○

<学習課題> どのようにして「外国人をさばけない」という条約をなくすことができたのだろうか。

ノルマントン号事件の風刺画



不平等条約のせいだ!

- ★ 外国人をさばけない。
- 外国の品物に自由に税金をかけられない。

年表

陸奥宗光により成功

まとめ

陸奥宗光は、

鹿鳴館の錦絵

フランス人
風刺画
「猿まね」

日本が外国からみとめられるようになった理由 (予想)

- ★ 憲法や国会
- 世界で日本人が活やく
- 条約の改正
- 戦争に勝利
- 産業が発てん

もう少し

(授業で使用する資料) 『事実を捉えることができる資料』

1886年ノルマントン号事件



陸奥宗光年表

1844年	○和歌山県の藩士の六男として誕生
1858年	○江戸に出て、天皇を敬い、外国を日本から打ちはらおうとする運動に参加
1867年	○坂本龍馬の海援隊に参加
1868年	○明治新政府が成立。陸奥宗光、外国事務局御用係に。
1871年	○神奈川県知事に。
1872年	○地租改正局長に。
1874年	○龍蔵、長州藩出身の役人が、明治政府で自分勝手な政治をすることにおこり、役人を辞職。
1875年	○再び明治政府へ。
1883年	○伊藤博文にみとめられ、3年間留学。帰国後、外交官に。
1892年	○伊藤博文内閣の外務大臣に。
1894年	○不平等条約の改正(日本人が外国人をさばけないという条約の改正)に成功 ○日清戦争が発生
1895年	○日清戦争に勝ち、伊藤博文とともに下関で清と条約をてい結 ○ロシア、ドイツ、イタリアによる三國干渉にあい、遼東半島を清国に返す。 国民から讃こしとのしられるが、自分の行動は正しかったと憤じる。
1897年	○病死(54才)

鹿鳴館の錦絵



フランス人風刺画
「猿まね」

陸奥宗光の名言
人よりできるだけ少なく
苦勞して人より多くの利益
を得ようとするのは意思が
弱くて薄弱で物事を断行す
る力に欠けるからである。
もし、そうした心が芽生え
たならば、必ず生涯は不平
不満な生活を送るしかない
のだ。

(4) 4 時間目／9 時間

① ねらい 『事実を捉えることができる資料』を活用することにより、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎の働きで日清・日露戦争を経て日本の国際的地位が向上したことを理解することができる。

② 準備 (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) 『事実を捉えることができる資料』

：年表、朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国の関係を描いたビゴアの風刺画、日清・日露戦争の比較の表、東郷平八郎の写真と東郷平八郎の肖像、NHK for school 与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 年表より、本時の学習課題をつかむ。	5 分	○本時は、単元を貫く課題の答えとして予想した「戦争に勝ったから」を調べていくことを伝える。 ○外国人を裁けるようになった年と同じ年に日清戦争、その10年後に日露戦争が起き、その7年後に不平等条約の改正が達成したことに気付けるように年表を活用する。
＜学習課題＞ 日清戦争と日露戦争について調べよう。		
2 課題を追究する。 (1) 風刺画から日本が戦争を始めた原因を知る。 ・日本と中国が、朝鮮をねらっている。 ・ロシアが日本と中国を見ている。 (2) 日清戦争と日露戦争の比較の表よりどんな戦争だったかを知る。 ・両方とも日本が勝ち、領土を得た。 ・日清戦争では賠償金をもらえたが、日露戦争ではもらっていない。 ・日露戦争の方が費用や戦死者が多い。 (3) 陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎の活躍を知る。 ・陸奥宗光は、条約改正で活躍してすぐに、日清戦争でも活躍したんだな。 ・東郷平八郎の作戦はすごいな。 ・小村寿太郎の働きにより、日本の安全を守れたんだな。 (4) 外国からの日本の評価を再度読む。 ・アメリカ、イタリア、ドイツの新聞記事は1905年だ。 ・インドやトルコでは、自分たちも頑張らなくちゃと言っている。 (5) 戦争が朝鮮半島や中国の人々に大きな損害を与えたことや、日露戦争に反対していた日本人がいたことを知る。	30 分	○日本や中国、ロシアが朝鮮に勢力を伸ばそうとしていることを理解できるように、ビゴアの風刺画「朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国」を提示する。 ○ロシアの強さを理解できるように、地図でロシアを確認したり、ビゴアの風刺画を提示したりする。 ○2つの戦争について理解をすることができるように、表を基に共通点や相違点を見つけるように促す。 ○戦争を終えて国の安全を確保できたことが分かるように日清戦争では陸奥宗光、日露戦争では東郷平八郎、小村寿太郎を取り上げる。 ○日露戦争後に日本の評価が向上したことを理解できるように、第1時に紹介した外国人やアジア諸国の日本人についての評価を提示する。 ○戦争について多面的・多角的に考えることができるように、朝鮮や中国の人々になって考えることを促したり、与謝野晶子は戦争に反対していたことを伝えたりする。
3 学習のまとめをする。 (1) 課題追究を振り返り、まとめをする。 ＜目指す子どもの意識＞ 日清・日露戦争で日本が勝利したこと、特に、ロシアに勝ったことにより外国から認められた。しかし、戦争により朝鮮や中国の人々に大損害を与えたり、国内でも戦争に反対する人が多かったりした。 (2) 次時の予告を知る。	10 分	○単元を貫く課題の答えに対して予想した「戦争に勝ったから」が正しかったことを、日清戦争、日露戦争をキーワードにしてノートにまとめる。 ◎自分の考えを持つことができるように、考えをノートに書くように指示をしたり、ペアや全体で交流したりする。 ◇陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎の日清・日露戦争での活躍により日本が国際的に認められるようになったことをノートにまとめている。 (ノート・観察)【知識・理解】 ○次時は、条約改正が達成したことについて調べていくことを伝え、学習の意欲を高める。

④ 板書計画

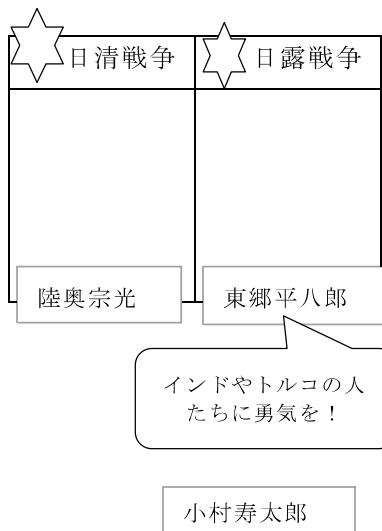
10/〇

<学習課題> 日清戦争と日露戦争について調べよう。

日清戦争時の中国、ロシア、日本の地図

日清戦争前の風刺画
朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国

日露戦争前の風刺画



日本が外国から認められるようになった理由 (予想)

- ☆ 憲法や国会
- ☆ 世界で日本人が活やく
- 条約の改正
- ☆ 戦争に勝利
- 産業が発展

もう少し

まとめ

(授業で使用する資料) 『事実を捉えることができる資料』

日清戦争時の日本、ロシア、中国の地図

日清戦争時の日本、ロシア、中国の地図

日清戦争前の日本、中国、ロシア、朝鮮の関係



日露戦争前の日本、ロシア、イギリス、アメリカの関係



日清戦争と日露戦争比べ

日清戦争 (1894年～1895年)		日露戦争 (1904年～1905年)
日本の勝ち	結果	日本の勝ち
陸奥宗光	活やくした人	東郷平八郎、小村寿太郎
約2億円	戦争の費用	約17.5億円
約1万3000人	戦死者の数	約8万4000人
約3億1千万円	ばいしょう金	なし
リアトン半島、台湾を得た。 ※のち、日本は、ロシア、ドイツ、フランスの要求によりリアトン半島を中国に返した。	領土	①韓国を日本の勢力のもとに置くことをロシアにみとめさせた。 ②樺太の南部と満州鉄道を得た。

(5) 5時間目／9時間

- ① **ねらい** 日露戦争後、不平等条約の改正を達成したことを理解するために、『事実を捉えることができる資料』を活用して調べたり、戦争の勝利について多面的・多角的に考えるために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用して調べたりすることができる。

- ② **準備** (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) 『事実を捉えることができる資料』

：条約改正年表、日本の領土の広がりや1905年の世界地図、NHK for school小村寿太郎、小村寿太郎年表

『既習内容を揺さぶることができる資料』

：朝鮮での日本語の授業の写真、増やされた日本語の授業のグラフ、NHK for school「君死にたまふことなかれ」

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 前時の学習を思い出した後、本時の学習課題を立てる。	5分	◎本時の学習意欲を高めるために、前時に学習した日清・日露戦争についてのフラッシュ型クイズを行う。 ○日露戦争後、不平等条約改正を達成したことについて着目できるように、条約改正年表を提示する。 ○本時は、どのようにして、不平等条約の改正が達成されたのかを調べていくことを伝える。
＜学習課題＞ どのようにして、不平等条約の改正が達成されたのだろうか。		
2 課題を追究する。 (1) 地図より、日清、日露戦争後、日本の領土が広がっていったことを知る。 ・戦争の後、日本は領土が増えている。 (2) テレビ教材より小村寿太郎の努力により関税自主権が回復したことを知る。 ・小村寿太郎は陸奥宗光の弟子なのか。 ・日本の安全を守るために、不平等条約の改正に向けて努力したのだな。 (3) 日露戦争後の世界地図より、欧米諸国のように日本も植民地を増やしたことを確認する。 ・教科書に「不平等条約の改正に成功して欧米諸国と対等な関係になった」と書いてある。 (4) 資料より二つの戦いで戦場だった朝鮮に住む子どもたちの様子を知る。 ・朝鮮の人がカタカナを学習している。 ・グラフを見ると、だんだん日本語の授業時間が増えている。 (5) テレビ教材より、日本でも戦争に反対した人がいたことを知る。	30分	○二つの戦争に勝ったことにより領土が広がったことを理解することができるように、領土の広がりの地図を提示する。 ○国民の安全を考えて日露戦争を終結させ、関税自主権の回復に成功させた小村寿太郎の外交官としての責任感の強さを理解することができるように、小村寿太郎年表やNHK for schoolのテレビ教材を提示する。 ○世界中が戦国時代だったことに気づき、日本も戦国大名のように領地拡大を目指して外国と戦争をし、植民地を増やしていったことを理解することができるように、1910年の世界の様子の地図を提示する。 ○不平等条約の改正成功も、日本の国際的地位の向上の理由の一つであることを、教科書を根拠にして確認する。 ○日露戦争後、日本は韓国を植民地とし、日本語を強要するなど、韓国の人々を苦しめたことに気付けるように、当時の韓国の授業の様子が分かる写真や日本語と朝鮮語の授業時間のグラフを提示する。 ○日本でも戦争に反対した人がいたことを理解できるように、NHK for schoolのテレビ教材を提示する。
3 学習のまとめをする。 (1) 本時を振り返り、陸奥宗光に手紙を書く。 ＜目指す子どもの意識＞ 陸奥宗光さんの活躍から17年後、小村寿太郎さんのおかげで関税自主権を回復することができ、念願の不平等条約が完全に改正されたのです。しかし、日本でも多くの戦死者が出たり、日本が韓国を植民地にして、韓国の人を傷つけたりしました。戦争は悲しい出来事です。 (2) 次時の予告を知る。	10分	◎自分の考えを広げることができるように、陸奥宗光に手紙を書き、友達と交流する活動を取り入れる。書きやすくするために、書き出しを「陸奥宗光さん」とするように助言する。 ◇不平等条約の改正の達成を理解するために、『事実を捉えることができる資料』を活用して調べたり、戦争の勝利について多面的・多角的に考えるために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用して調べたりすることができる。 (ノート・観察) 【観察・資料活用の技能】 ○次時は、単元を貫く課題の答えとして予想した「産業が発展したから」について調べていくことを伝え、意欲を高めていく。

④ 板書計画

10/〇

<学習課題> どのようにして、不平等条約の改正が達成されたのだろうか。

日本が外国から認められるようになった理由（予想）

領土拡大
地図
（日清戦争後）

領土拡大
地図
（日露戦争後）

条約改正年表

小村寿太郎年表

- 憲法や国会
- 条約の改正
- 強い国
- 世界で日本人が活やく
- 産業が発てん

まとめ

陸奥宗光さん、

（授業で使用する資料） 『事実を捉えることができる資料』

日清戦争後の日本の領土



日露戦争後の日本の領土



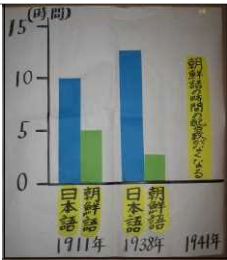
日露戦争後の世界地図

列強の世界分割の地図

朝鮮での日本語の授業の様子

朝鮮での日本語の
授業の様子の写真

増やされた日本語の授業



小村寿太郎年表

1855年	○宮崎県の藩士の長男として生まれる。
1870年	○東京に出て、今の東京大学に入学する。
1875年	○文部省の留学生としてアメリカのハーバード大学に行き、法律の勉強をする。
1880年	○日本に帰国して、司法省に入る。
1884年	○外務省のほんやく局に入る。
1893年	○外務大臣の陸奥宗光に才能をみとめられ、北京の公使館の参事になる。→各国の行使を務める。
1901年	○外務大臣になる。
1902年	○日英同盟を結ぶ。
1904年	○日露戦争が起こる。
1905年	○アメリカのポーツマスでロシアとポーツマス条約を結ぶ。
1906年	○外務大臣を辞任する。
1908年	○外務大臣になる。
1911年	○不平等条約の改正(関税自主権の回復)に成功する。 →外務大臣を辞任する。 →3か月後に、病死する。57才

条約改正の歩み

1853年	○ペリーが来航する
1858年	○日米修好通商条約を結ぶ(不平等条約を結ぶ)
1863年	○オールコック「大政の部」発行
1868年	○明治政府が成立する
1871年	○岩倉使節団が外国をおとずれる
1883年	○鹿鳴館で舞踏会などが開かれる
1886年	○ノルマントン号事件が起こる
1889年	○大日本帝国憲法が発布される
1894年	○不平等条約の一部を改正する(外国人をさげないという条約を改正)
1894年～1895年	○日清戦争
1904年～1905年	○日露戦争
1905年	○アメリカ、イタリア、ドイツで、日本をたたえる新聞を発行
1911年	○不平等条約の改正達成(関税を自由にかけられないという条約を改正)

(6) 6 時間目／9 時間

① ねらい 『事実を捉えることができる資料』や『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用することにより、産業が発展して日本が外国から認められるようになったことや、産業の発展が労働問題や環境問題を引き起こす原因になったことを考えることができる。

② 準備 (児童)教科書、資料集、ノート

(教師)『事実を捉えることができる資料』

: 明治時代の工場や労働者の数のグラフ、日清戦争で得た賠償金の内訳、官営八幡製鉄所、輸出入の推移のグラフ

: 産業の発展とラジオ放送、交通の発達、洋服の普及を比較・関連付ける。

『既習内容を揺さぶることができる資料』

: NHK for school官営富岡製糸場とNHK for schoolの民営紡績工場

: 産業の発展と工女の日課表を比較・関連付ける。

: 産業の発展と足尾銅山の鉱毒事件を比較・関連付ける。

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 前時までの学習を思い出すために、クイズを行った後、本時の学習課題を立てる。	5分	◎学習意欲を高めるために、前時までに学習した人物のフラッシュ型クイズを行う。 ○本時は、単元を貫く課題の答えとして予想した「産業が発展したから」を調べていくことを学習課題とする。
＜学習課題＞ このころの産業の発展について調べよう。		
2 課題を追究する。 (1) 資料より、日清戦争後、産業が発展したことに気付く。 ・工場や労働者の数、輸出入額が増加。 ・輸出や輸入品の種類が変わっている。 (2) 日清戦争で得た賠償金の使い道について資料からほとんど軍事費だと知る。 ・軍事費って、武器をつくる費用かな。 (3) 産業の発展により、生活が便利になったことを知る。 (4) 産業が発展したことをオールコックに伝えるための手紙を書く。 (5) 産業の発展の裏には、労働問題や環境問題が起きたことを知る。 ・工女さんは一日15時間も働いていた。 ・足尾の銅をあかがね街道で運んでいたって3年生で習った。 ・田中正造ですごい人だね。	30分	○日清戦争後、輸出入額や輸出入品の中で重工業品が増えたことを理解できるように、明治時代の工場や労働者の数のグラフ、輸出入の推移のグラフを提示する。 ○重工業にも力を入れていったことを理解できるように、賠償金は何に多く使われたか予想する活動の後、NHK for schoolのテレビ教材「八幡製鉄所」を提示する。 ○産業が発展し、生活が便利になったことを知るためにラジオ放送の開始などの写真を提示する。 ○産業の発展が単元を貫く課題の答えになっていることをまとめるために、オールコックに産業が発展したことを伝える手紙を書く活動を取り入れ、友達と交流する。 ○一方、労働問題が起きたことに気付き、当時の人々の思いを考えることができるように、NHK for schoolのテレビ教材や工女さんの日課表を提示する。 ○環境問題が起き、人々の生活の改善のために努力した先人の思いを考えることができるように、田中正造の年表を提示する。
3 学習のまとめをする。 (1) 課題追究を振り返り、課題に対する考えをノートに書く。	10分	○産業の発展について多面的・多角的に考えたことをまとめるために、工女か田中正造に手紙を書く活動を取り入れ、友達と交流する。
＜目指す子どもの意識＞ ○工女さんが15時間以上も働いてくれたおかげで産業が発展して、輸出入も増えました。でも、こんなに働かないと産業が発展しないなんて大変な世の中だったんですね。 ○正造さん、産業が発展するのはよいことだけれど、環境が汚れるのはよくないことだと立ち上がってくれてありがとうございます。おかげで、今、渡良瀬川はきれいです。		◇産業の発展と労働問題や環境問題について、比較・関連付けて多面的・多角的に考えている。 (ノート・観察)【思考・判断・表現】 ○次時は、単元のまとめを行うことを告げ、学習への意欲を高める。
(2) 次時の予告を知る。		

④ 板書計画

11 / ○

<学習課題> ころの産業の発展について調べよう。

日本が外国からみとめられるようになった理由（予想）

明治時代の工場や労働者の数のグラフ

日清戦争の賠償金の使い道のグラフ

工女の日課表

一日15時間も働いている。

つらいな。

- ☆ 憲法や国会
- ☆ 世界で日本人が活やく
- ☆ 条約の改正
- ☆ 戦争に勝利
- ☆ 産業が発てん

1882年、1899年の輸出入のグラフ

ほとんど軍事費

鉱毒事件当時の足尾の様子(写真)

田中正造

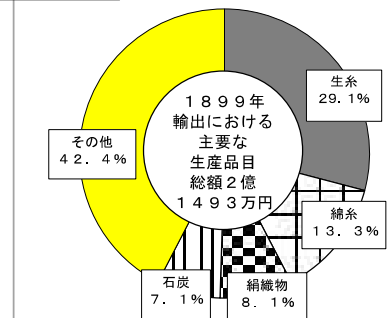
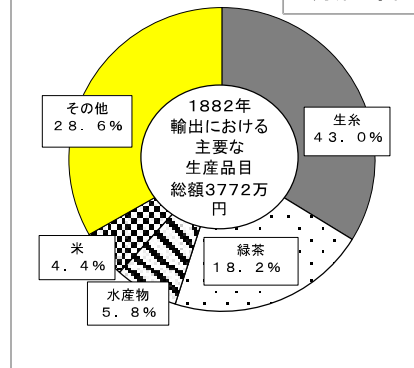
まとめ

(授業で使用する資料) 『事実を捉えることができる資料』

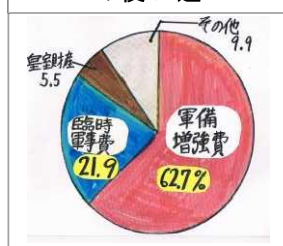
工場や労働者の数



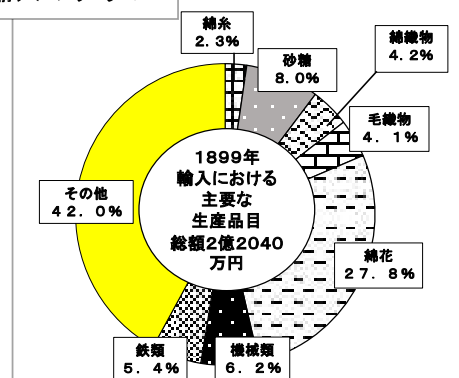
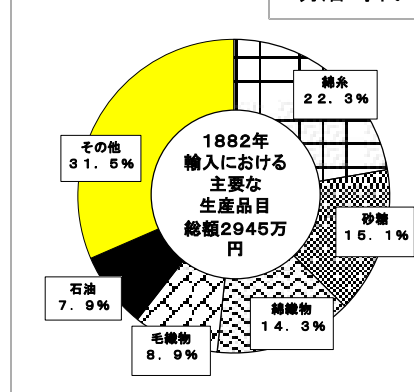
明治時代の輸出のグラフ



日清戦争の賠償金の使い道



明治時代の輸入のグラフ



(授業で使用する資料) 『既習内容を揺さぶることができる資料』

長野県の製糸場で働く工女の日



鉱毒事件当時の足尾の様子



田中正造



(7) 7 時間目／9 時間

① **ねらい** 『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して、日本の国際的地位の向上や、労働問題、環境問題に力を尽くした先人の働きと現在や将来の生活とのつながりについて考える。

② **準備** (児童) 教科書、資料集、ノート

(教師) 『既習内容を深化・発展することができる資料』

: 紙幣に載っている偉人、カレー、肉じゃが、現在も発展している日本の工業の様子、日本国憲法三原則、労働時間適正化キャンペーンのポスター、足尾の植林の様子

③ **展開**

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 前時までを振り返り、本時の学習課題をつかむ。	5 分	○前時までは、単元を貫く課題の答えの予想を調べてきたことを確認する。 ○前時までの授業を振り返り、単元を貫く課題の答えをまとめる。 ○本時は、既習内容を深化させて、学習したことと現在の生活とのつながりについて学習していくことを伝える。
<学習課題> 学習したことと現在の生活とのつながりについて考えよう。		
2 課題を追究する。 (1) 『既習内容を深化・発展させるための資料』を基に新たな事実を知り、現在とのつながりを考える。 (現在とのつながり) ・明治時代に活躍した人が肖像画になっている実物の札(世界での活躍と現在) ・肉じゃが、カレー (東郷平八郎と現在) ・今の日本の工業の様子 (産業の発展と現在) ・労働時間適正化キャンペーンのポスター (工女の生活と現在) ・日本国憲法、韓国料理 (戦争の影響と現在) ・足尾の植林活動 (足尾鉍毒事件と現在) (2) 単元を貫く課題と現在とのつながりをまとめた新聞を作る。 ① 新聞を書く手順を確認する。 ○外国から認められるようになった理由の中から二つ選び、活躍と現在とのつながりをまとめる。 ○産業の発展と戦争の勝利のうち一つを選び、現在や将来の生活とのつながりや自分との関わりを書く。 ② 新聞の見出しを考える。 ・世界の中で力をつけてきた日本	30 分	○今まで学習してきたことと現在の生活とのつながりについて各自で考えた後、グループや全体で交流する。 ○学習したことと現在の生活とのつながりを考えるために、『既習内容を深化・発展させるための資料』を提示する。 ○先人の思いや働きが、現在の生活の改善へとつながっていることを考えることができるような資料を提示する。 ○資料を基に現在の生活とのつながりについて自分の考えを持つことができるように、分かったこと、考えたことをノートに書いた後、ペアや全体で交流するように伝える。 ◇日本の国際的地位の向上や、労働問題、環境問題に力を尽くした先人の働きと現在や将来の生活とのつながりについて考えている。 (ノート・観察)【思考・判断・表現】 ○新聞記者となり新聞を作成することにより、単元を貫く課題の答えをまとめたり、その業績が現在の生活とつながっていることを考えたりしていくことを伝える。 ◎見通しを持って活動できるように、新聞作りの計画を伝える。 ○明治時代の産業の発展や、日清・日露戦争の勝利について多面的・多角的に考えたことを表現するために、そのどちらか必ず新聞にまとめることを伝える。 ○新聞の大きな見出しとして、時代を一言で表すキャッチコピーを考えることを伝える。
3 学習のまとめをする。 (1) 課題追究を振り返り、課題に対する考えをノートに書く。 <目指す子どもの意識> 日本が外国から認められるようになった理由の中から産業の発展と戦争の勝利を、大変だったことの中から工女の生活を選んだ。昔と今のつながりを勉強して昔からある物を大切にしたいと思った。 (2) 次時の予告を知る。	10 分	○新聞に書くものとして、日本が外国から認められるようになった理由の中から二つと、大変だったことの中から一つを選び、本時の感想をノートに書くように伝える。 ○考えを広げることができるように、ペア、全体と交流する活動を取り入れる。 ○学習の意欲を持つことができるように、次時は新聞を作っていくことを伝える。

④ 板書計画

11 / ○

【大きな学習課題】
日本はなぜ外国から認められるようになったのだろうか。

<学習課題>

学習してきたことと現在とのつながりについて考えよう。

○大きな学習課題の答えをまとめよう。

日本が外国から認められるようになった理由

- ☆大日本帝国憲法
- ☆世界で日本人が
活やく
- ☆条約の改正
- ☆戦争に勝利
- ☆産業が発展

野口
英世
写真

北里
柴三
郎写
真

志賀
潔写
真

新渡
戸稲
造写
真

新聞にまとめる方法

○新聞記事について

(一番記事)

日本が外国から認められるようになったことの中から二つ

(二番記事)

その中で大変だったこと

現在と
のつな
がり

まとめ

○グループの考え

1 班
世界で日本人が活
躍と現在
野口英世と千円札

2 班
工女の生活と現在
今は労働時間が守
られている。

3 班
産業の発展と現在
明治時代産業が発
展したから今の桐
生織がある。

4 班
足尾鉍毒事件と
現在
今渡良瀬川がきれい。

5 班
韓国併合と現在
焼肉など韓国の食
べ物が日本で食べ
られるし、韓国へ
旅行もできる。

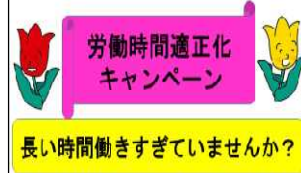
6 班
戦争に反対と現
在
今は、日本は戦
争をしない国

(授業で使用する資料)「既習内容を深化・発展することができる資料」

東郷平八郎と現在の生活



工女の生活と現在の生活



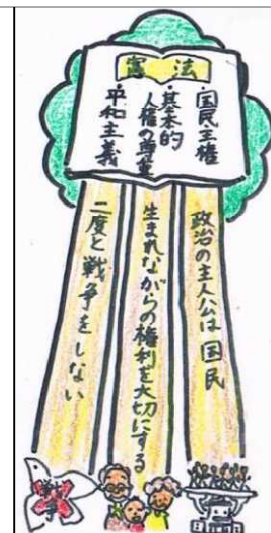
産業の発展と現在の生活

現在の自動車の
組み立て工場の写真

世界に活躍した人と現在の生活

野口英世、新渡戸稲造が
載っている実物のお札

与謝野晶子と現在の生活



足尾鉍毒事件と現在の生活



韓国併合と現在の生活



日本で親しまれている
韓国料理 (焼肉)

(8) 8、9 時間目／9 時間

- ① **ねらい** 新聞作りを通して、日本の国際的地位が向上したことと、戦争の勝利や産業の発展について多面的・多角的に考えたことについて、現在の生活とのつながりや、現在や将来の生活への発展へのつながりについて、自分の考えを持つことができる。
- ② **準備** (児童)教科書、資料集、ノート、B 4 の新聞制作用の紙

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 前時までを振り返り、本時の学習課題をつかむ。	5 分	○前時の学習を振り返り、本時は学習してきたことを新聞でまとめることを伝える。
<学習課題> 学習してきたことを新聞でまとめよう。		
2 課題を追究する。 (1) 手順に従って、新聞を書く。 ① 現在とのつながりを考えながら、単元を貫く課題の答えの中の当時の活躍を二つ選び、記事を書く。 ② 現在とのつながりを考えながら課題となった出来事を一つ選んで記事を書く。 ③ 新聞の構成を考えてから B 4 の紙に清書する。 ④ 1 時間目の終了10分前に、ペアで新聞の途中経過を交流し合う。	75 分	○新聞を2時間で仕上げ、仕上がった新聞を基に、考えを交流する予定であることを伝える。 ○国際的地位を高めることができた業績については、学習したことの中から二つ選ぶ。 ○業績については、誰が、その時代の中でどんな活躍をしたのか、また、現在の生活にどのように受け継がれているのか、自分とどのように関わっているのかなどを書く。 ○課題となる出来事について、その時代の中にどんな影響を及ぼしたのか、また、現在の生活とどのようにつながっているのか、また、どのように自分と関わっているのかを考えながら書く。 ◎自信をもって作業を進められるように、1 時間の内の終了10分前に、ペアで途中経過を交流し合う活動を取り入れる。 ◇日本の国際的地位の向上や、労働問題、環境問題に力を尽くした先人の働きと現在の生活とのつながりについて考えたことを新聞にまとめている。 (ノート・観察)【思考・判断・表現】
(2) 2 時間目の終了20分前に、グループの中で新聞を交流し合う。		○自分の考えを広げるために、2 時間目の後半に、グループの中で新聞を交流し合い、友達から学んだことや感想をノートに書き留めていく。
3 学習のまとめをする。 (1) 学習を終えての感想をノートに書く。 <目指す子どもの意識> 新聞作りを通して、外国から認められようと努力してきた人の気持ちを考えることができた。また、その思いが現在の生活につながっていることも分かった。友達の新聞から自分が考えていなかったことを知ることができた。	10 分	○単元を通して振り返ることができるように、新聞作りや友達と交流しての感想を書くように助言する。 ○友達の考えに触れることができるように、感想をペアで交流した後、数名の児童に発表するように促す。
(2) 次回の予告を知る。		○次回は、その後の時代について学んでいくことを告げ、学習の意欲を高める。

④ 板書計画

11 / ○

＜学習課題＞ 学習してきたことを新聞にまとめよう。

計画

◎ 2時間扱い

(1) 1時間目

作業
後半 10 分間
ペアで交流

(2) 2時間目

35 分間作業
後半 10 分間グル
ープで交流

記事の書き方

○大きな学習課題の答えを二つ

- ・誰が、どんなことをした
- ・現在の生活とのつながり

○戦争の勝利、産業の発展について

- ・当時大変だったことは何か
- ・現在の生活とのつながり

まとめ

(1) ☆見出し
(2) 記事を下書き
(3) レイアウトを考える
(4) 清書

単元のまとめの新聞の例

- 単元を貫く課題の答えが二つ書けている。
- 誰がどんなことをしたかが書けている。
- 単元を貫く課題の答えと、現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活への発展とのつながりが書けている。

- 戦争の勝利か産業の発展のどちらかを選び、多面的・多角的に考えたことが一つ書けている。
- その出来事を通して、明治時代、誰がどんな思いや願いをもって行動していたのか書けている。
- その出来事と、現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活への発展とのつながりが書けている。

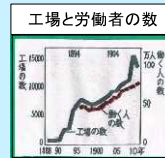
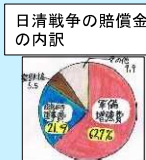
◇ 日本飛躍の時代新聞 ◇

やったね日本！

オールコックさんもびっくり！ 日本の国際的地位が向上

すごいよ日本！

明治時代、産業が発展したから、日本は外国から認められた



日清戦争の勝利による賠償金で工場をつくったので、工場や労働者の数が増えたよ。

日清戦争後、輸出入が増えたよ。工業が発展したので、外国との関係もよくなったんだね。

産業が発展したのは、工女さんのおかげ！

製糸工場の工女さんは、グラフのように、15時間以上も働いていたんだよ。だから、日本は、外国にたくさん生糸を輸出できたんだ。



子どもたちも働かないと産業が発展しないなんて大変な世の中だな。

現在は、子どもたちは働いてはだめなんだよ。また、働きすぎないように、労働時間を守ろうという運動も行われているよ。よかったね。

明治時代、世界で日本人が活躍したから日本は外国から認められた

野口英世さん

アフリカで黄熱病の研究をしたよ。ノーベル賞の候補になったけど、戦争でかなわなかったよ。

新渡戸稲造さん

「太平洋のかけ橋になりたい」は有名な言葉。国際連盟のリーダーになり、世界で活躍したよ。ぼくたちも世界のかけ橋になろう！

ガーナでは、現在、野口英世記念病院があるよ。現在でも野口英世の願いが受け継がれているね。

現在、野口さんや新渡戸さんは、日本のお札になっているよ。